

理工・ライフサイエンス部会活動の展望

第1期理工・ライフサイエンス部会長

藤浪 眞紀



2018年4月より理工学部会とライフサイエンス部会を統合した理工・ライフサイエンス部会が発足することになりました。理工学部会は放射性同位体や放射線発生装置から発生した放射線の計測手法や理工学の応用をスコープとする部会であり、ライフサイエンス部会は同位体の生命科学研究への応用をスコープとする部会です。50年以上の活動実績がある両部会を統合することは唐突な印象を与えるかもしれませんが、実は十数年以上前から両部会は合同で活動してきました。例えば、例年7月に実施している放射線基礎セミナーです。大学生・院生や研究機関・企業人に向けての放射線関連の教育啓発を目的とし、計測手法に関する内容を理工学部会が、生体への影響に関する内容をライフサイエンス部会が担当してきました。本年度55回を迎えるアイソトープ・放射線研究発表会では両部会の多くの委員により幹事会を構成し、運営を担ってきました。更に一般の方をターゲットとした放射線施設の見学会を企画・運営しており、2016年度は(国研)理化学研究所のNh発見現場、2015年度は(国研)国立がん研究センターでの放射線治療の現場の見学会を実施しました。このような協力体制がとられてきたのは、理工学の応用が生命現象の解明にまで広がってきたことや、ライフサイエンス分野の研究や技術開発に先端放射線計測手法の利用が必須になってきたという流れがあったからです。以上の現状認識を踏まえ、両部会を融合することで相乗効果を促進し、科学やテクノロジーの発展に資する新規なアイソトープ・放射線の利用を推進することを目的として本部会は設立されました。

2017年3月に約20名の委員からなるワーキンググループを発足し、準備を進めてきました。まず、既存の専門委員会の見直しや将来を見据えた新規専門委員会を提案いただき、審議・評価しました。それにより決定した専門委員会は、(1)若手ユーザ活性化専門委員会、(2)植物RIイメージング利用推進専門委員会、(3)獣医療におけるRI利用専門委員会、(4)下限数量以下の非密封RIの安全取扱に

関する専門委員会、(5)放射線設備機器利用推進専門委員会、(6)アイソトープ手帳改訂専門委員会、(7)RI利用推進専門委員会です。基本方針として1期2年の活動を原則とし、成果の評価が明確となるような目標を委員会毎に設定しています。一方、若手ユーザ活性化専門委員会においては、今後の委員の企画・運営能力を期待して設置しました。この1年の準備期間で具体的な活動内容について議論を重ねた結果、発展目覚ましい中国の研究者等との研究交流会を企画しているとのこと。学生・院生を含む若手研究者・技術者の積極的な参加を期待しております。

アイソトープ・放射線研究発表会は、従来は部会から独立した組織で運営しておりました。今後は本部会の委員と関連領域の委員で開催企画会議を発足することにより、特別講演やパネル討論の企画に対しても本部会が積極的にコミットメントすることになります。ここ数年実施してきた若手優秀講演賞も定着し、毎回50件近いエントリーから10件程度の発表者に賞を授与しています。第55回からは講演プログラムを調整し、会期中に授賞式を実施できるようになりますので、受賞者の感激も一層増すと思います。

放射線基礎セミナーは前述したように従来より合同で活動してきた実績がありますが、会員のニーズや新規の研究動向をより取り込むことで系統的な教育プログラムを実現し、一層の教育啓発活動や参加者の拡大を推進してまいります。

その他、本部会が主催するシンポジウム(隔年開催)の企画・運営といった新たな取組みも計画されています。歴史ある両部会のミッションを引き継ぎつつ、統合による新たな活動を立案・発信する部会となり、アイソトープ・放射線の利用推進に関する公益活動をより一層努めていく所存です。これまで以上に、会員の皆様のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

(千葉大学)